

一言覚え

その133

巳年の話

「一言覚え」は毎月、月初めに発行している私のコラムです。執筆を始めてから10余年になります。今月は「蛇」「巳」についてお話ししましょう。

今年は12支で「巳」年。十二支の始まりは何時とは言えず、その昔神様が年の始まり（元旦）にわし（神様）のところへ挨拶に来た順番にその年の王様にしてあげるって言うことで限定12の動物に競争させたということが始まりのようです。

ね うし
子と牛との関係 猫とネズミとの関係 兎と虎との関係
と先輩の博識者に聞くと尽きなくありますが今回は巳→
(蛇) にちなんだお話ししましょう。

昨年は辰年そして今年**巳年** 12支の順番では辰の方が先に来ますが、実際は同着だったとか。神様の判定はひげの差で辰を先にしたそうです。このような話は現在でも競馬で「鼻」の差などと判定されていますね！所詮は人間の作ったルール昔も昨今も変わらないようですね。

へび まつわる かんようく
そこで現世「蛇」に纏まつわることわざ・慣用句を拾ってみました。

草を打って蛇を驚かす (何気なくしたことが思いがけない結果を

招くこと。ある人を懲らしめることによって戒めること。)

えんえんちようだ
蜿蜒長蛇 (蛇のようにうねうねと動くようす)

じゃ へび
蛇の道は蛇 (専門家の間でその専門について暗黙に了解が出来ること。又は専門のことは専門家が詳しいこと)

すん
蛇は寸にして人を呑む (英雄や偉人は小さいときから人を圧倒すること。風格をもつこと。)

じゃばら
蛇腹 (山折や谷折を繰り返して伸び縮み自由にした構造)

じょうざん だせい
常山の蛇勢 (軍隊の配置や文章の構成などが、前後左右どこに

も隙や欠点のないこと。常山の蛇は頭を叩こうとすれば尾が、尾



を叩こうとすれば頭が反撃するとされる)

蛇足 (余計なこと)

だかつ

蛇蝎のように恐れる (対象を、ヘビやサソリのように恐れ嫌うこと)

はいちゆう だけい うたが

杯中の蛇影 (疑いすぎて自分で苦しんでしまうこと)

だけいこ

蛇稽古 (長続きしない稽古事のたとえ)

蛇に足無し魚に耳無し (蛇は足がなくても這って進めて、魚は耳がなくても感じる事が出来る。)

へび

かえる

蛇ににらまれた蛙 (恐ろしいものに直面して身動きが出来ない状態)

蛇の生殺し (生きも死にもしない状態、中途半端な状態で放置しておくこと)

蛇は竹の筒に入れても真っ直ぐにならない (生まれ持った根性は

どうやっても直らないこと)



封豕長蛇 (大きなイノシシと長いへび、欲が深く残酷な人の喩え)

か くちなわ

蛇に咬まれて朽ち繩に怖じる (過去の経験から

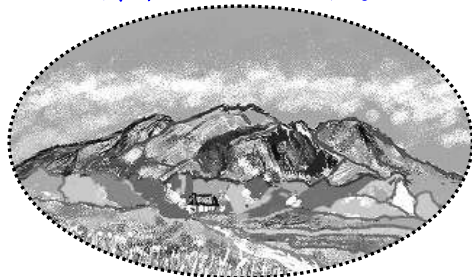
ささい
些細なことにおびえること)

りゅうとうだび

竜頭蛇尾 (最初は立派でも、尻すぼみに終わってしまうこと)

藪蛇 (余計なことをして悪い状況になってしまうこと)

皆さん、自分に置き換えてみて体験したことはありませんか？
良いにつけ、悪い熟語につけ今年皆さんにとって最良な年であることをお祈りいたします。



橘さんのソフト
(ペイント)による
スケッチです。

平成 25 年正月

永田武光